

マンガを活用した小説の時制理解と指導の改善

沖縄国際大学 桃原 千英子

はじめに

文学作品の語り手を把握する学習として、学校図書の国語教科書（2011：80-81）ではマンガ『ちびまる子ちゃん』さくらももこ（集英社 2003 年）の一場面を用いて、①心中思惟、②語り手の説明、③作中人物の言葉の三つの語りから、作品構造を考える言語活動が中学 3 年次に組まれている。それを応用し、2014 年中学 1 年生を対象に、三つの語りの中で時制が異なるものはどれか考えさせる学習を行った所、時制の把握を誤る学習者の姿が見られた。今回、大学生の読みの実態をもとに、語りの時制を誤る原因と、学習デザインの改善案を提起する。

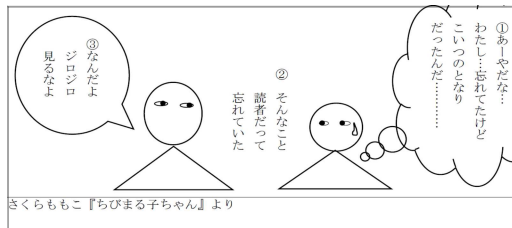
1 学習課題と中学生の理解の実態

中学 1 年の『少年の日の思い出』では、作品の解釈にあたり、「語り手」と「時制」を捉え作品構造を適切に理解することが求められる。しかし、「語り」や「時制」などの読みの方略が身につけていない生徒もあり、作品構造を図示して全体で確認するだけでは、学習者の読解力の向上にはつながらないことが危惧された。

そこで、多様な視覚情報で構成されるマンガであれば、語り手理解も容易になると考え、学習の導入として、中学 3 年の教科書課題を参考に使用することにした。

教科書課題について教師用指導書（2016：137-138）では、マンガによって作中人物まる子の心中思惟、作者（語り手）の説明の言葉、実際に声に出された男子の言葉といった三者の語りを示した後、『握手』の部分テキストでも同じ書き分けがなされていないか、「語り」の仕組みに気づかせることで、テキストを外側から眺め、テキストを批評する視点を獲得させようとするものである、と説明されている。

この課題に「時制」を問う課題を追加して、以下のような学習課題を提示した。



『中学校国語 3』学校図書株式会社（2011：81）
遠足のバス車内。

女の子①と男の子③が隣同士になった時の
1 コマ。

1. 上の漫画は、三つの言葉で書き分けられています。それぞれ誰の言葉でしょうか。また、そう考えた理由も書いてください。

2. 三つの言葉の中で、時間（時制）が異なっているのはどれでしょうか。また、その言葉の時制（現在・過去・未来）を考え、その理由を書きましょう。

中学生の理解の実態として、学習課題1では、三点リーダーや吹き出しの形、視線の方向、マンガは右から左に読むものなどといった、マンガに関する知識を使いながら、全員が語り手を判断することができた。

学習課題2では、車内の①女の子の心中思惟と、その視線を受けた③男の子の言葉が、同じ時間と場所で展開されている。その後、その出来事を読者の立場に寄り添いながら説明する②語り手の言葉が発せられているため、正解は②となる。しかし、時制の異なるものについて、正解の②「語り手の言葉」ではなく、③「男の子の言葉」を挙げる者がいた。また、その言葉の時制も、現在または未来に二分された。

本課題は学習の中心課題ではないため、マンガにおける「語り」の仕組みをパワーポイントで示すに留めたが、読みの違いが生じる理由については明らかにできなかった。

2 大学生による理解の実態

大学生を対象に、中学1年用に作成した上記の学習課題を提示し、(1)課題について自分の読みと根拠を書く。(2)発表し、学生同士、読みの違いを共有する。(3)なぜそのように読んだのか、自分の読みの理由を言語でメタ化する。という流れで授業を行った。

大学生の読みも、時制の異なるものについて、中学生と同じく「男の子の言葉」と誤読するものがいた。またその理由として、3点提出された。

大学生の読みの代表として T・K・N の学習課題2の記述をもとに、時制の把握の違いが生じる原因について検証したい。

(1) 時制の異なるものを、③「男の子の言葉」と間違えたTの読み

答え…③「男の子の言葉」

理由…①②の言葉は文末が「～た」となっており、過去の出来事であると捉えることができる。また、①の言葉と登場人物の目線を受けての③であると考えられるため、③よりも①の時制が過去であると捉えることができる。

① ② (現在の視点) → ③ (未来の視点)

【プリントへの記載のママ】

Tは、文末がタ系列であることに着目し、文法面から時制を捉えた。情報駆動の読みで作品を読んでいることがわかる。また、マンガの人物の目線を受けた後に③が発せられていることも、①と③の時差を判断する根拠としており、漫画というジャンル意識が働いていることもわかる。その後、友達との読みを交流しあい、正解が②になる理由を以下のように記し、コメントを書いている。

正解②「語り手の説明」：発せられた言葉①③とは時間の流れが異なるから。②は語り手であるから時制が異なる。物語の中の流れが存在する。⇒作品の構造分析をしている。

コメント：言葉を発した順番という捉え方でしか、時制を見ていなかったが、物語の流れと異なる時限の言葉が存在すると分かった。しかし、流れが異なるといっても、その言葉たちが発せられる順番があるので、時制は発生するので、異なる時限があるとは捉えにくいのでは。

物語の流れとは異なる、「語り」の次元の言葉が存在することは認識できつつも、言葉が発せられる順番が現実にはあり、その中でも時制は発生していることを指摘している。

これは、物語駆動の読みに基づいて読まれた結果であり、語り手が出来事を再現したプロットを読むというような、作品構造を意識した要点駆動の読みは行われていなかったことを表している。さらに、漫画は右から左に読むといった知識が影響した可能性もある。作品構造と時制を一緒に考えさせる課題は、異なる次元を統合させて考える必要があるので、難しい課題であることを指摘している。最後にTは、授業の感想として以下のようにまとめている。

今日の授業の感想：時制を捉えるときに、作品の登場人物が話す順番にとらわれてしまっていたために、物語の流れと作品の構造に着目できなかったということが分かった。

Tは、語り手も登場人物の一人と捉えており、アニメ『ちびまる子ちゃん』のナレーションの影響を受けて、語り手としての声というよりも他の登場人物と同じ時間軸の中で展開される言葉として把握していることがわかる。それが声の順番として、①女の子の心中思惟の後に、読者に寄り添った形でコメントされる状況説明としての②語りの言葉といった具合に、二つの言葉を連続したものとして捉える考えに繋がったのではないかと考えられる。

（２）時制の異なるものを、③「男の子の言葉」と間違えたKの読み

〔時制〕…動詞が表す内容の時間的位置（過去・現在・未来など）を示す文法的範疇。

答え…③「男の子の言葉」時制は未来。

理由…②は①を受けて、かつ時間的な流れとは無関係に発せられていると考えられる。よって、そのあとに発せられた③の言葉が、①②から見て未来の時制にあると考えられる。

Kは、②が①の「時間的な流れとは無関係に発せられている」と、作品構造は理解している。しかし、「時制」という言葉について辞書的意味をもとに考えたため、Tと同様、文末表現に着目することになり、時制が異なるのは③「男の子の言葉」といった誤った読みを導いた。中学生の指導においても、英語で習っている「過去形」「現在形」などの時制を参考にして分かりやすくしたつもりであったが、文末表記に目が向けられ、かえって作品のプロットへの視点を妨げてしまったと考えられる。時制の異なるものを間違えて選んだ理由として、Kは以下のように述べた。

間違えた理由：マンガ（右から左へ読む）ということに関して、①を受けての②、また「超越的な語り手」という視点を持っていないために、②を一登場人物と同等に考えてしまった。→「話す順」（語る順）で捉えていたから、作品構造で理解する。

感想：物語中で、文章の文法的な面に着目し、文末の時制として読む解釈と物語の構造に着目する解釈があり、一つの絵だけでも多様な読みが行

えることが興味深いと思った。

作品構造の特徴には気づいていても、「語り手」「超越的な語り手」という語りの視点を持たなければ、文末の時制を頼りに話の順序で読むといった、物語駆動の読みに流れてしまうことを示唆している。作品構造が、女の子と男の子の物語世界の時間軸と、それを読者に寄り添いながら説明する語り手の世界の時間軸との二つがあることを、理解する必要がある。

(3) 時制の異なるものを、②「語り手の説明」と正しく読んだNの読み

答え…②「語り手の説明」

理由…①番、③番のセリフは、物語の内容だが、②番のセリフは物語の内容とは無関係なので、セリフの種類が違う。

時制を間違えて読んでしまう理由：語り手の言葉も物語の内容として捉えてしまうと、混在して時制が読み取りづらくなるのではないかと思った。

今日の授業の感想：作品構造を理解させるにあたって、時制を捉えさせることが非常に重要ということを理解した。教育実習で「オツベルと象」を授業で行ったときに、物語の内容と牛飼いの語りを分けて考えることのできない生徒がいて、その点に非常に苦しんだ。まずは、「時制」を捉えさせようで、作品構造を理解させたら、もっと生徒の読みが深まっていだろうなと今日の講義を通して感じた。

Nは、物語内容と語り手の言葉を分けて考えることで作品構造を把握した。作品構造の理解によって、漫画の読み方のルールや、アニメのナレーションの語りの影響を受けずに、②「語り手の説明」が物語内容を受けて後から説明されたものであることを読み取ることが可能となった。Nは、教育実習先での『オツベルと象』の授業の反省から、「時制」の理解が「作品構造」を正しく導くとのコメントをしている。しかし、どちらを先に指導すべきかは、作品によって異なるであろう。『ちびまる子ちゃん』では「作品構造」を先に理解させることで時制の把握が可能になるが、『少年の日の思い出』のように作品の前半と後半、また作品全体を通した語り手など、複数の語り手が存在する作品では、時制を先に考えさせることが文章構成の理解に有効になる。『握手』は語り手が一人なので、時間構造を中心に押さえることで、幾つかの物語の時間を行き来する語り手「わたし」の、ルロイへの思いを読み取ることができるであろう。

いずれにしても、「時制」の問いは、文末表現などテキストのミクロ構造へと着目させる。時制に目を向けるあまり、作品の全体構造を読み違えたり、語り手と登場人物の関係、語り手が出来事を再現したプロットを見落としてしまつては、作品の理解には至らない。

3 漫画を活用した時制指導の問題点

以上、大学生の読みの実態から、漫画を活用した時制指導において留意すべき点を述べたい。

(1) 複数メディアの存在

漫画の語り手の言葉「そんなこと読者だって忘れていた」について、作品構造をもとに考えるのではなく、物語の順序で考えた場合には、まる子の心中思惟の後にナレーションが入っても、おかしいとは言えない。漫画の言葉は、①②③という順序でも、①③②という順序でも、どちらでも読みが可能である。

また、語り手の説明がどの段階で入るかという判断が、漫画の記載情報だけでなく、アニメ『ちびまる子ちゃん』のナレーションの影響を大きく受けている可能性もうかがえた。

さらにアニメ『ちびまる子ちゃん』のナレーションの入り方も一定ではなく、それに影響を受けた可能性もある。教科書の漫画を含む、アニメーション3作品の語りの一部は、以下のようになっている。

- ① アニメ『ちびまる子ちゃん』第13話「まるちゃん遠足に行く（前編）」の巻（1990.4.1）
 【教科書で使用された漫画のアニメーションである。漫画とアニメでは、ナレーションの位置と内容が異なる。漫画では、語り手の「そんなこと読者だって忘れていた」という説明が、アニメでは効果音と男の子の顔のアップに置き換わっている。アニメのナレーションは、まる子の心中思惟の後に続く説明であったり、男の子の言葉の補足説明であったりする。】

教師「はい、この前決めた席順で、座って下さいね。」（車外にて。バスに乗り込む子供たちに向けた言葉。）

※車内の様子（右側シートから左側シートへフレーム移動）

まる子の心中思惟「あー、やだな。わたし忘れてたけどこいつの隣だったんだー。」

効果音 鼻水を垂らした男子の顔（顔のアップからズームアウト）

男の子「何だよ。じろじろ見るなよ。」

まる子の心中思惟「じろじろ見てたらバス酔いより悪酔いしちゃったよ。」

ナレーター「と、思いながらもまだ目が離せない程、彼の顔にはインパクトがある。」（説明）

男の子「お前顔色悪いぞー。まさか酔ったんじゃないだろうなー。鬼太郎袋持ってきたかー？」

ナレーター「彼の言う鬼太郎袋とは、酔った時に皆に迷惑をかけないための袋である。ゲゲゲの、だから、そのように命名されたらしい。」

- ② アニメ『ちびまる子ちゃん』第14話「ふたりだけの留守番」の巻（1990.4.8）

【セリフの上にナレーションが重なる。ナレーションは、まる子の性格の説明。ナレーション後、ナレーションの説明とは逆接関係で続くまる子の心中思惟や、最終的にはナレーションの説明通り、好物のカレーを注文するといった作品構成の工夫、伏線として。また、そのようなまる子の性格や行動を際立たせるものとして、セリフの途中に追加されている。その間のまる子のセリフはフェイドアウト。】

まる子「ねえねえお姉ちゃん、お昼何にする？」

姉「えっ、あーもうこんな時間か。」「そうねー、何にしようか。」

まる子「あのさー、二つしか頼まないんだし、まさかざる蕎麦っていうのも先方に失礼だよな、やっぱり丼物位はね。並でいいからさあー。」（まる子の声が次第に小さくなり、

その上にかぶさるようにナレーションが入る。)

ナレーション「まるちゃんは子供のくせに妙なところで気を遣う。」「まるちゃんはカレーライスが一番好きだなあー、と、思っているのだけれど…」

まる子の心中思惟「うーん、ここはやっぱりカツ丼か天井だろうな。おっ、すき焼き丼なんてのもあるんだね。」

姉「私は、鍋焼きうどんがいいな。」

まる子の心中思惟「あっ、鍋焼きも美味しそうだね。」

姉「まる子は何にするの？早く決めなさいよ。」

まる子「うっうん、ちょっと待ってよ。えーっと、えーっと。」

姉「あっ。」

姉「もうまる子待ってたらきりが無いわよ。同じものでいいわね。」

(電話をかける)

まる子「あっ、待って。あー、決めた、天井にして天井。」

姉「天井ね。よし。」

まる子「やっぱカツカレーにして。」

姉「もう変更なしよ。」

③ アニメ『ちびまる子ちゃん』第368話「まる子流、茶道」の巻(2002.4.14)

【セリフとセリフの間にナレーションが挟み込まれている。漫画の登場人物である家族や、視聴者の気持ちを代弁している。】

まる子「お抹茶ってどんな味がするのかなー。きっとすごく美味しいんだろうねー。」

じいさん「あー、このお茶とは違うものじゃからの。」

まる子「いいなー。飲んでみたいなー。」

じいさんの心中思惟「まる子、お茶に憧れを持ってしまったのか。じゃが許してくれまる子、わたしには茶道の嗜みがないんじゃ。じじと言え、日本の心に精通しているものなのに、あーなんで若い頃きちんと習っておかなかったのじゃろう。そうすればまる子に本物のお抹茶を飲ませてやれただろうに。」

ナレーション「そんな物、はなから誰もあんたに期待してない。」

まる子「あっ、おじいちゃん。」

じいさん「なんじゃ、まる子。」

まる子「お茶会しようよ、二人で。」

これら、三つの例からも分かるように、アニメのナレーションの入りは「心中思惟の説明」「セリフの補足説明」「セリフをしゃべっている最中にかぶせられるように差し込まれる、話者の説明」「セリフとセリフの間に挟み込まれ、漫画の登場人物や、視聴者の気持ちの代弁」「作品構成の工夫、伏線」など様々である。読者の頭にアニメーションの語りがイメージされているとするならば、超越的な語り手の視点で構造的に読むよりも、ストーリーの順序に意識が向くであろう。

学生AとYも、次のように述べている。

A

私の考えは、製作者側のアフレコの雰囲気→声の役割。だから②番の時制は現在なのではないか。

何故考え方にずれがあるのか？

漫画以外のことを考えている。アニメ漫画の情報を受けた初めの印象が、時制の受け取り方を変化させている。→漫画のみ皆が見ていれば、あまりズレは生じないはず。テレビと漫画という、2つのメディアイメージがあるため、ズレが生じる。

Y

読みの違いはどこで生じたか？

ナレーションが説明文ではなく、会話としてこの漫画の中にうまく溶け込んでいるため、多くの読みの違いが生まれたと考える。普通の漫画であれば、キャラクター同士の会話で構成されていて場面の説明や効果音が少し書かれている程度だと思うが、この場合はキャラクターの会話に答えるように書かれているため、時制の混乱が起きていると考える。

扱う学習材が、漫画とアニメーションの二つのメディアがある場合、純粋に一つのテキストから判断し解釈が行われるわけではない。解釈にそれぞれのメディアの要素が入り込んでしまい、混乱を招くと考えられる。

（２）漫画のコマ割りの問題

学生 M は、漫画のコマ割りと、漫画の部分テキストといった提示の仕方が、読みの違いに影響を及ぼしたとして、以下のように述べている。

読みの解釈の違い

- ・漫画だからこそ起こりうる解釈の違いの差だと思っていた。
- ・漫画にはコマ割りがあって、右→左、上→下に順に読んでいくが、たまにシーンに迫力をつけるために順番を変えたり、読んでほしいシーンやセリフを大きめに書くことで、効果的に見せたりしている。だからそのために、シンプルに分かりやすいセリフや絵の大きさにしていることが多い。
- ・教科書に載っているものは、文章だけで右→左へ読むだけのルール。想像を手助けしてくれるイラストがないのが解釈の違いに繋がるのか…？⇔ドラマやアニメだとそういうのがあまりない。
- ・書き方の特徴→ネタバレに繋がる（超越した語り手）

漫画の読み方といったルールが、語りの時制を誤らせる原因になっていることと、一コマといった部分テキストによる、解釈の補完の難しさを指摘している。

（３）時制のゆらぎ

今回の漫画では、時制の異なる言葉はどれかという問いに対して、現在という視点と、未来という視点の二つの読みが生じた。

ここでのナレーターは、読者の気持ちに寄り添って、漫画のストーリーに突っ込みを入れたり解説をするなどしている。ナレーターの言葉に同意する形で読んでいけば、語り手

の言葉を現在と捉えるであろう。一方、登場人物に寄り添って読んでいた場合は、没入している登場人物たちにより現在進行形で展開される話に対して、未来の視点からコメントされている気持ちになるだろう。

W. イーザー（1998：188）は、視点の移動について、次のように述べている。

テキストは、読者の移動する視点に対して、特異な超越性を示す。すなわち、読者は視点を、とらえようとするものの中におかざるをえないが、同時に目の届かぬところがでてくる。読者はたえずテキストの中で視点をずらして行くわけで、その限りでは読者はテキストを局面でしかとらえることができない。

一人一人が作中のどこに視点を置き、誰に寄り添って読んだかによって、テキストはその局面でしかとらえられない超越性をもったものとなる。また漫画という絵で表現されたメディアでは、文字だけの時よりも視点人物への着目度がより強まるであろう。まる子視点からナレーター視点へといった視点人物のゆらぎは、個人の読みの過程でも生じる必然的なものであるといえる。

4 まとめ

田近洵一（2013：153, 167-168）は、作品世界の構造の〈読み〉の視点として、作品の全体構造の〈読み〉を挙げている。これは、どのようなストーリーが、どのような順序で語られているか（作品としての構成）—そこにどのような意味があるか。を読み取る読みである。

漫画の場合も、ストーリーの語られる順序を作品の全体構造から読み取り、それを意味づけていく過程で読みが形成されていくが、本教材のような部分テキストでは前のストーリーが欠落しているため、全体構造から語られる順序を推測していくことは難しくなる。前半のテキストを埋める読みが、読者のこれまでのアニメの経験や知識、想像にゆだねられてしまい、時制を問うこと自体が発問としては適切でなかったといえる。

しかし、今回のようにあえて、漫画の一コマを用いて「語り手」と「語りの時制」を考えさせる学習を行う際は、登場人物の世界の出来事と、それを眺めている語り手の立ち位置を、先に示してあげると良いだろう。プリントでは、1で語り手の言葉を見分けさせ、判断させる学習を行った後、2の時制を考えさせる学習を組んだ。1が作品構造であることと、2の時制との間に関連性があることを、学習者にも意識させて作品を読み取らせるようにすると良いだろう。

また、漫画といったサブカルチャーを用いて語りを考えさせることで、登場人物に寄り添った読みをしているのか、ストーリーとは異なる時制にいるナレーターの視点で作品を客観的に読んでいたのかといった、自分の読みをメタ認知する練習教材にもなる。

サブカルチャーテキストの使用は、学習者の興味を引き、絵によって自分の読みが何に影響されているかが可視化しやすいといった利点がある。しかし、安易に用いてしまうと、かえって読みを複雑にしてしまうことになる。テキストの特徴を活かせるようにしたい。

文献

学校図書 (2011)『中学校国語 3 11 学図・国語 922』平成 23 年 2 月検定済み, 80-81
学校図書 (2016)『中学校国語 3 教師用指導書 教材研究編(上巻) 11 学図 国語 928』
137-138

田近洵一(2013)『創造の〈読み〉新論—文学の〈読み〉の再生を求めて』東洋館出版社, p.153,
167-168

W. イーザー著, 轡田収訳 (1998)『行為としての読書』岩波書店, 188

石塚智子脚本 (1990.4.1 放送) 13 話 A「まるちゃん遠足に行く(前編)」の巻,
<http://chibimaru.tv/about/story/1990/>, © さくらプロダクション / 日本アニメーション『ち
びまる子ちゃん オフィシャルサイト』<http://chibimaru.tv/> (2017 年 12 月確認)

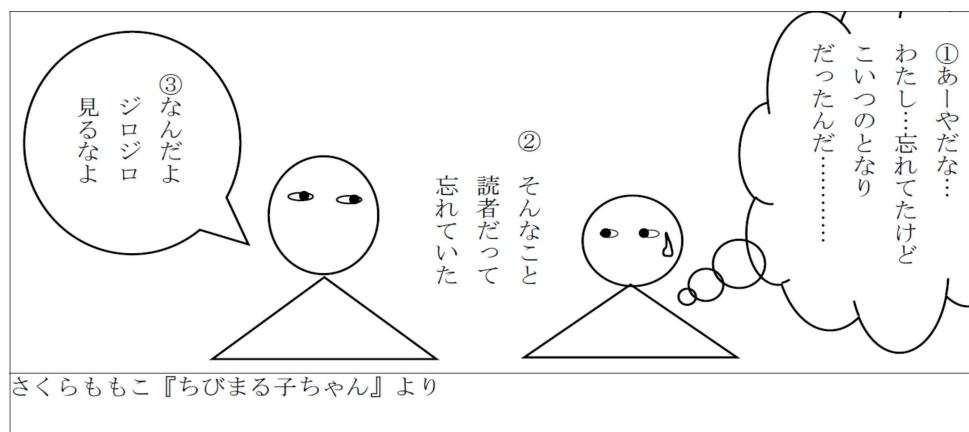
丸尾みほ脚本 (1990.4.8 放送) 14 話 B「ふたりだけの留守番」の巻,
<http://chibimaru.tv/about/story/1990/>, © さくらプロダクション / 日本アニメーション『ち
びまる子ちゃん オフィシャルサイト』<http://chibimaru.tv/> (2017 年 12 月確認)

石塚智子脚本, さくらももこ脚本監修 (2002.4.14 放送) 第 368 話「まる子流、茶道」の
巻, <http://chibimaru.tv/about/story/2002/>, © さくらプロダクション / 日本アニメーション
『ちびまる子ちゃん オフィシャルサイト』<http://chibimaru.tv/> (2017 年 12 月確認)

石塚智子, 丸尾みほ脚本「ちびまる子ちゃん 第 13 話「まるちゃん遠足に行く」、第 14
話「あこがれの鼻血」「ふたりだけの留守番」

<https://www.youtube.com/watch?v=TnDjbOf2-qI>, 【公式】ちびまる子ちゃんねる, © さ
くらプロダクション / 日本アニメーション, [https:
//www.youtube.com/channel/UCBqA04GYbwNh_oP6tJEvYuw](https://www.youtube.com/channel/UCBqA04GYbwNh_oP6tJEvYuw) (2017 年 12 月確認)

資料（ワークシート）



1年組 番 氏名 () 1①

1, 上の漫画は、三つの言葉で書き分けられています。それぞれ誰の言葉でしょうか。また、そう考えた理由も書いて下さい。

・「あー、やだな... わたし...忘れてたけどこいつのとなりだったんだ...」

理由 () の言葉

・「そんなこと読者だって忘れていた」

理由 () の言葉

・「なんだよ ジロジロ見るなよ」

理由 () の言葉

2, 三つの言葉の中で、時間（時制）が異なっているのはどれでしょうか。また、その言葉の時制（現在・過去・未来）を考え、その理由を書きましょう。

理由 () 番...時制は ()